

第7回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

タイム・ログの活用

写真のタイム・ログは、時間をセットすると赤い発光ダイオードの数で残り時間を表示するタイムエイドである。

一定の時間ごとに一つずつ赤い発光ダイオードが消えていき、すべての発光ダイオードが消えたら「ピー、ピー」というアラーム音とともに時間がきたことを知らせてくれるものである。一列に並んだ赤い発光ダイオードが一つずつ順番に消えていくことで、終わりを理解しやすいようにしている。また、一度設定した時間は容易に変更できないようになっている。

これは、スイッチなどの興味があり、勝手にスイッチを触ってしまって時間を動かしてしまうようなタイプの人でも、容易に時間の変更をすることができないので、そのような人に対しても心配することなく使うことができるのである。



タイムタイマーを使う

写真は、タイムタイマーというタイムエイドである。タイム・ログが一列に並んだ発光ダイオードで時間を表示していたのとは違って、タイムタイマーは扇形の面積で残り時間を表示するというものである。扇形の面積は赤い色で示され、コントラストもはっきりしているのがわかりやすい。表面にある突起を反時計回りに動かし必要に応じて時間をセットすると、残りの時間が扇形の面積で表示され、手を離れた時点から時間の経過とともに扇形の面積が徐々に小さくなっていき、その面積の広さで残り時間がどのくらいあるのかをわかるようにしているのである。もちろん時間が多く残っているほどその面積は広いということになる。その面積が無くなると、音で知らせてくれる機能もついている。大きさは三種類あり、壁掛け時計のように使えるものから、置き時計のように使えるもの、腰のベルトに引っかけて持ち歩きながら使うことができるものなどがある。また、腕時計タイプになっているものもある。普段使っている腕時計にタイムタイマーの機能がつけられているものであり、使うことができるようになる人もいるのではないかと思う。



タイムタイマーの特徴を生かす

タイムタイマーとタイム・ログの大きな違いは、一度設定した時間を容易に変更することができにくいタイム・ログとは対照的に、タイムタイマーは、時間の再設定が容易であるという点である。設定した時間をいつでも変更することが可能なのである。

タイムタイマーを用いるときには、このような特徴を意識して使うことが大切である。つまり、時間の設定に対し、子どもと相互に交渉しながら最終的には、子ども自身が自分でその時間を決めることができるようにしていくということである。タイムタイマーを自分で操作し設定時間を変えることができるということは、自分で設定した時間や設定された時間に納得できなければならない。タイムタイマーで設定された時間に従うというようにするという発想ではなく、時間設定の自由度が高い分、納得したうえで、時間設定することができるようにしていくことが大切なのである。もちろん、最初から納得して時間を設定するという事は難しいかもしれない。タイムタイマーの使用を通して、納得して時間設定をすることができるように練習していくということなのである。テレビゲームなどをしているときに、「あとこれだけで終わりにするよ、いいかな」と、子どもと一緒にタイムタイマーを操作しながら提案するようにするのである。

タイムタイマーの特徴を生かせば、子どもと双方向にやりとりしながら時間を設定することも可能になる。言い換えれば、タイムタイマーの使用が時間を話題にしたコミュニケーションの機会を提供してくれているということである。どちらかが一方的に時間を決めてしまうのではないということである。これは時間を指導するときにも大切なことではないだろうか。また、その操作についても、配慮が必要である。時間設定が容易にできるということは、その操作性も簡単であるということである。最高一時間の設定になっているため、一周しか回すことができないのであるが、残り時間が扇形で表示される事が理解できるようになると、もっと時間が必要だという場合には、一周以上回してしまうようなことも考えられる。もちろんそのような場合は故障してしまうことになるからである。

タイムエイドの活用を考える

知的障がいや自閉症のある人たちの自立した生活につながるように、どこにいても、時計から時間を読みとり、見通しを持つことができるようになればと考えて、アナログ時計やデジタル時計を使って時間を指導することがある。しかし、繰り返し指導しても、アナログ時計やデジタル時計から時間を読み取り、見通しを持つことが困難な人もいる。このような場合には、ここで紹介したようなタイムエイドの活用についても考えていく必要があるのではないだろうか。この時計で時間が分かるようにしていかなければならないという発想ではなくて、こんな時計だったらこの人にも使えるかもしれないという発想で、実際に使ってみることが大切なことではないかと思う。